

留学先：東亜大学校

氏名：福島亜矢子（留学時：教育学研究科教科教育専攻 2年）

留学期間：2016年3月～2017年2月（12ヶ月）



交換留学を希望した動機	韓国語習得のため留学したいと考えたのが第一の動機である。また、交換留学であれば現地大学の授業を受けることができると知り、自分の専攻（声楽）を韓国でも学んでみたいと思ったため交換留学を希望した。
留学先を決めた経緯	親族の家がある釜山の大学の中から大学院生でも語学堂（大学付属の語学学校）で韓国語の授業を受けることの出来る東亜大学校を選んだ。
留学先の大学について （特徴や紹介したい特色）	釜山にある私立大学の中ではトップクラスの総合大学。中国やベトナムからの留学生の数が多し。語学堂は2年半ほど前に移転・新築されたため綺麗である。また、徒歩で市場や繁華街に行けるため便利である。
留学先で履修した科目や学習等	【語学堂】 <ul style="list-style-type: none">・会話・語彙・文法・リーディング・ライティング・リスニング・韓国文化への理解 【学部授業】 <ul style="list-style-type: none">・専攻実技（声楽）
あなたの留学先へ交換留学を考える福井大学生へのメッセージ	東亜大学校は韓国第二の都市である釜山にある大学です。全国的にソウルに留学する学生が多い中、釜山の東亜大学校の最大のメリットは日本人留学生の少なさです。日本人が周りに多ければ多いほど会話が日本語になりがちですが、韓国人をはじめとした海外の学生と会話する際にどうしても韓国語を用いなければならないため、日本人が少ないという点は語学を学ぶ上でメリットになると私は思いました。（実際、語学堂のクラスでも日本人1人であることが多かったです。） また、釜山は海も山もあるため、都会でありながらも自然を感じられる場所が多くあります。そのため、福井出身の学生でも環境の変化に動揺することなく過ごせるのではないかと考えます。 東亜大学校への留学をおすすめします！

【交換留学の成果について】

■ 交換留学を希望した動機をふまえた成果を得ることができたか

韓国語の習得を第一の目的としていたが、語学堂では中級2のクラスまで修了することができ、1月に受験した韓国語能力試験（TOPIK）においては5級（6級が最高級）に合格することができた。この点に関しては成果を得ることができたと感じている。

また、現地大学で声楽の授業を受ける点に関しては、前期は自分の語学力が足りず、受講することができなかったものの、後期は受講することができ、韓国語でのレッスンということで担当の先生と韓国語で意思疎通を図りながら授業を受けることができたため、概ね成果を得ることができたと思う。

■ 設定した目標を達成できたか

留学中の目標として以下の3つを設定していた。

- | |
|-------------------------------|
| ①韓国語能力試験で3級もしくは4級を獲得すること |
| ②語学堂の韓国語講座で中級2もしくは高級1まで進級すること |
| ③留学後の修了演奏に向けて声楽のテクニックを向上させること |

①および②に関しては前項の通りであるため割愛し、ここでは③に関して述べる。

上述の通り、前期は大学でレッスンを受けることが出来なくなったため、大変苦勞した。約半年のブランクは自分にとって大きなダメージとなってしまったとも感じたほどである。しかし、後期からは担当の先生に発声を重点的に教えて頂き、少しずつテクニックが向上するのを実感することができた。後期の授業が終わってからもレッスンに通い、自分自身の声種にあったレパートリーを増やし、韓国歌曲のレパートリーも1曲ではあるが獲得することができた。そのため、設定した目標を達成することができたと考えている。

■ 留学先での学業を通して学んだこと

語学堂で韓国語の授業が中心だったこともあり、毎日韓国語漬けだったが、少しでも気持ちが悪むと単語や文法を覚えきれないと感じた。特に、中級になると語彙・文法の数も増え、授業のスピードも上がるため、辛いと感じることが多くなる。実際、中級1で学校に来なくなる学生も多い。しかし、「このしんどい時期を乗り越えれば、韓国語をもっと楽しむことができる！」と考え、勉強を続けた。何事においても同じだが、諦めずに努力することの大切さを改めて感じた。



■ 留学先の生活を通して学んだこと

学んだこととは少し違うが、韓国での生活で自分がどのように変化したかを述べる。韓国人は日本人と比べて自分の主張をはっきりするため、「分からない」「できない」といった主張をはっきり相手に伝えなければならない場面が多かった。また、私はもともと分からないことがあると自分1人で解決しようとする癖があったが、自分で考えたり調べても分からないものは分からないし、現地の人に助けを求めるほうが確実だと考えるようになったため、分からないことや疑問に思うことを積極的に聞けるようになった。

■ 留学前に期待した以上にできたこと

語学堂の授業が初級1からのスタートだったため、留学前に目標は立てたものの、1年間で自分の語学力がどこまで向上するか正直不安だった。しかし、上述の通り、韓国語能力試験で5級を取得できたことは自分の期待以上であり、語学力の向上を実感することができた。

また、留学期間の終盤ではあったが、高校の日本語授業に参加する機会を頂いた。韓国の高校生に日本語や日本の文化を教えることは留学前には予想していなかったため、大変貴重な経験となった。

■ 留学前・留学中に期待していたもののできなかったこと

留学前は学部授業で韓国の学生と交流を図りたいと考えていたが、上述の通り、自分の語学力不足のため前期は受講することができず、後期も語学堂の授業との兼ね合いから声楽のレッスンのみを受講していたため、他の学生との交流はほぼできなかった。語学の習得のために留学するとはいへど、もっと基礎を勉強してから留学しなければならなかったと思う。

■ 交換留学での経験を踏まえての今後の目標

1年間の交換留学で、ある程度の語学力を身に付けることができたと感じている。この語学力をさらに向上させるために、4月にある韓国語能力試験では6級を取得することを目標としたい。また、私は将来、音楽の教員を目指している。今回の交換留学の経験が直接関係しているわけではないが、高校での日本語授業の経験などから、自分が将来どういった生徒を育てていきたいか改めて考えることができた。交換留学での成果を将来還元していきたいと思っている。

